

## 前回WGの振り返り

---

令和8年2月  
政策統括官付



分類	主なご意見
<p>①データ整備・更新・オープンデータ化の運用のあり方について</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) データ整備の目的や担当する部署により、データ整備を行う際の優先順位の設定が異なるのではないか。</li> <li>2) データ整備時に自治体と連携した関係者団体が、整備後のデータの維持・更新に対して、いかに継続して協力いただけるかは、自治体としては不安である。</li> <li>3) 民間施設の場合は、管理上の制限や利用条件がある可能性を考慮すると、特別特定建築物であっても、建物の所有者や管理者の同意を得ずに整備されたデータを公開することは難しく、ルール作りが必要ではないか。</li> <li>4) 投稿された情報のライセンスや品質、掲載許可の取得等について、ガイドラインで位置づけできると良い。</li> <li>5) バリアフリーに関する情報提供を目的とした写真撮影と商品の撮影は異なるとの立て付けの整理が必要ではないか。</li> <li>6) AIによる画像解析について、写真の場合、対象物を正確に撮影する必要があるため、情報の抜け漏れが懸念される。動画から設備を判読できれば、撮影者に必要な技術的ハードルを下げられるのではないか。</li> </ol>
<p>②データの利活用方策について</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 投稿用のAPIをオープンにすることで、既存の様々な取り組みにおいて投稿された情報が、ほこナビDPに蓄積される仕組みを作っていけると良い。</li> <li>2) ガイドラインにおいて、歩行空間ネットワークデータを効果的に活用するためのサービスの提供方法等が記載されると良い。</li> </ol>



分類	主なご意見
③国による技術支援のあり方について	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 本プロジェクトを進めるには、民間事業者側から自治体への営業活動等を通じた普及・展開にも期待すべきだと考える。自治体や公的機関のほか、民間事業者も講習の対象とした方が良い。</li> </ol>
④普及展開に向けた事例拡大のための戦略について	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実証を踏まえて、1地区や1施設の整備に掛かる時間やコスト、ワークロード等をガイドラインに記載できると、データの整備意欲に繋がるのではないかと。</li> <li>2) ガイドラインの文量が多いため、簡略的になったことが伝わりにくく、何をすれば良いのか分かりにくい。自治体が最低限取り組むべきことや、どれだけ簡単に整備できるかをまとめた、数枚程度の資料が別途あると良い。</li> <li>3) 実証を終えて今後取り組みを広げるフェーズに入っていくと思うが、普及させる段階が最も難しいと感じている。作業や現地調査、写真撮影等を伴うなかで、いかに負荷なく周りを巻き込めるかが重要だと考える。</li> </ol>